

平成27年度 学校評価報告書

浜松市立浦川小学校

I 学校評価の結果

1 学校教育について

(1) 地域関係者へのアンケートより

①幼・小・中を通じて、子供たちに付けさせたい力

自分たちで学習を進める力、人との関わり方、郷土愛、仲間と一つのことを成し遂げる力、どこでも堂々と生きていく力、目標をもって進む力強さ・しなやかさ

②地域で子供を育てるために ～浦川のおよさ・特色、学校が果たす役割～

地域皆で子供の成長を楽しむ人間関係、自然との共生、歴史と行事、強い地域力（互助の精神）、地域の方とのふれ合い、地域を巻き込む

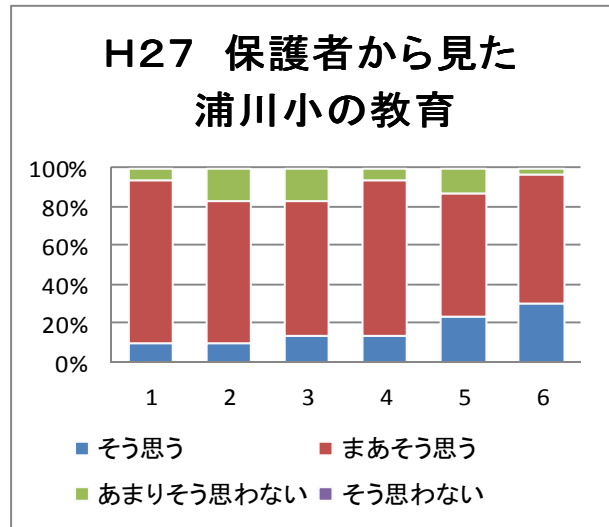
③学校への意見・要望

浦川小で学ぶことへの自信と誇り、都市部に負けない学力・学習環境、幼小中が交流しながら学ぶ環境、高齢者との交流で伝承・伝統を守る、この地に育った証として伝統・文化・自然・知恵を習得、打たれ強くたくましい子供の育成

(2) 保護者へのアンケートより

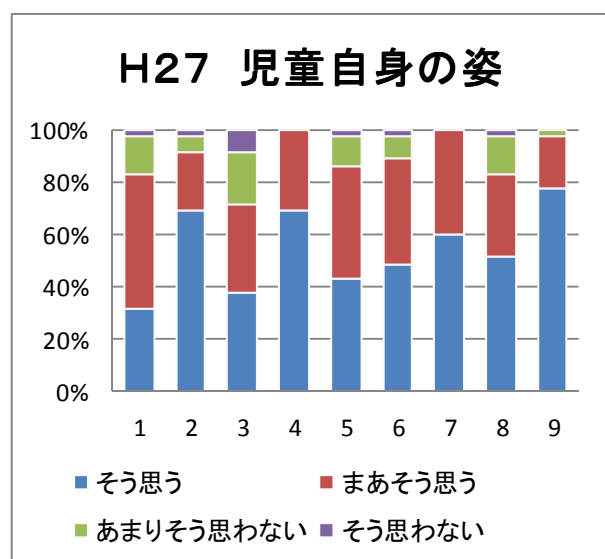
* 数値は、回答者全員が「そう思う」と回答した場合を100と見なした場合の指数

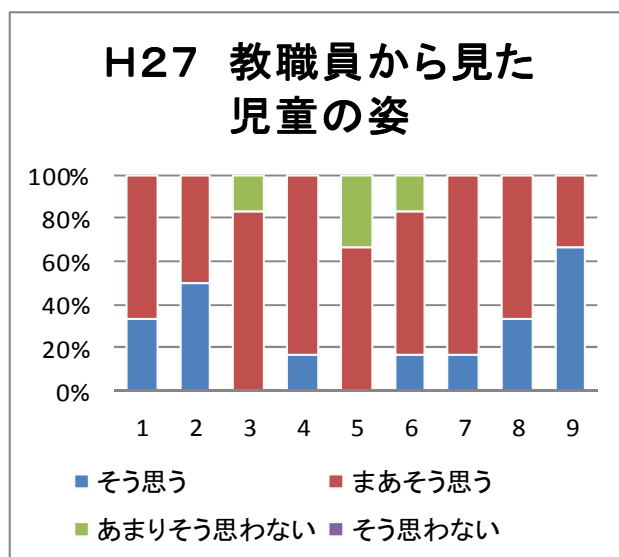
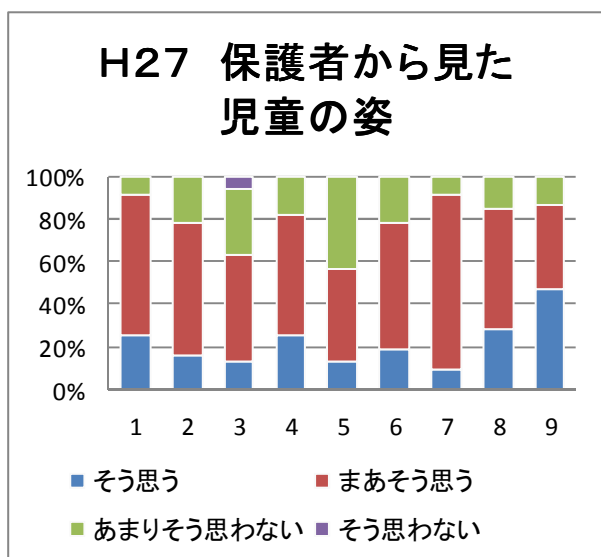
No.	質問	保護者
1	確かな学力が身に付く取り組みをしている。	74
2	思いやりの心を育て、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	69
3	たくましい体を鍛える取り組みをしている。	70
4	三者面談など相談しやすい環境を作り、家庭と連携している。	75
5	家庭や地域に情報を発信し、連携・協力している。	74
6	子供の健康や安全に気を配っている。	81



2 児童の姿 児童・保護者・教職員より

No.	質問	児童	保護者	教職員
1	自分の思い・考えを発表(表現)している。	74	77	83
2	毎日家庭学習に取り組んでいる。	87	68	88
3	よく本を読んでいる。	69	58	67
4	気持ちのよいあいさつや返事をしている。	92	72	79
5	時と場に合った正しい言葉遣いをしている。	78	56	58
6	進んで運動に取り組んでいる。	81	69	71
7	健康や安全に気を付けて生活している。	90	73	79
8	仲よく思いやりをもって生活している。	79	74	83
9	浦川小には元気があふれている。	93	80	92





3 学校評議員会からの意見・助言

(1) 少人数のメリット・デメリット

- ①少人数のよさを生かしたきめ細やかな指導を一層工夫していく。
- ②縦割り活動などでコミュニケーションの不足を工夫して補いつつ、その中で言葉遣いについても家庭と連携して指導していく。

(2) 学習と地域・伝統・文化

- ①基礎学力向上のためには、短時間で継続的な指導の場の設定も有効である。
- ②地域の学習材や人材を一層活用し、体験活動をより充実させ、地域のよさを実感させたい。その際、作成された「学ぼう ふるさと浦川」を生かし、さらに地域にも広めて欲しい。子供たちの自己肯定感や思いやり・助け合いを培うことにも有効である。

II 教育活動の成果と課題

1 学習

- (1) 全国学力・学習状況調査では、国語・算数・理科とも全国平均を数ポイント上回った。「学力向上プラン」で課題とした「読む力」も少しずつ成果が見られた。国語A（知識）は平均と同程度であった。ただし、各学年少人数であり、これが全校の傾向ということではない。他学年も参加した市新学力調査、県定着度調査では、算数の基礎・基本、また国語の「読む力」も継続して一層の定着が望まれる。
- (2) 自主学習に毎日取り組んでいる児童がほとんどだが、保護者から見るとやや低く、その取り組み方への支援を一層工夫する必要がある。
- (3) 読書の評価がやや低かった。時間の確保とともに、生活習慣としての学校生活への位置付け、読書環境、教科学習との結び付きなどの工夫がさらに必要である。また、家庭との連携も大切である。
- (4) 体力テストでは、50m走や立ち幅跳びがやや劣っている。運動の経験、量や質などの視点から、昼の時間の活用、全校運動の内容などを再点検していきたい。

2 生活

- (1) 気持ちのよい返事や挨拶が、例年より児童・保護者ともに向上している。目指す学校の姿（合い言葉）が、子供たちに浸透してきており、さらに継続したい。
- (2) 本年度PTAの実践項目として取り組んだ言葉遣いは、保護者・教職員側から見て、まだ評価が低い。時と場ということを指導し、その判断力を高める。
- (3) 昼休みに全校児童がみんなでドッジボールを楽しむ姿が毎日のように見られた。「仲よく思いやり」の評価もますますであるが、同学年内における人との関わりという点では、配慮を要する児童の表れもある。縦割りグループなどを一層活用し、縦・横の関わりやコミュニケーションの力を培っていきたい。

Ⅲ 平成28年度教育活動の方向付け

1 学級編制

学級	1・2年生	3・4年生	5・6年生	計
人数(人)	5	13	9	27

2 複式授業・合同授業

- (1) これまでの算数科に加えて、国語科について一部の学級で複式授業を実施する。
- (2) 社会科、音楽科、図画工作科、家庭科、体育科のように一定の人数により指導効果が上がり、2学年単位で目標や内容が設定された教科では、2学年合同で行う。ただし、教員数が減り、児童数もさらに減るため、AB年度方式と来年度以降の学級編制を見通しながら、下学年(1～3年)、上学年(4～6年)という学習集団も検討していく。理科は、薬品や火気の使用もあるため、各学年単独の授業としたい。道徳、学級活動、生活科、総合的な学習の時間、外国語活動は、学級として2学年合同で行う。

3 重点目標「学び合う」「認め合う」「鍛え合う」

(1) PDCAサイクルによる重点目標の明確化

学校経営方針を受けた各重点目標について、学び合いプラン(学力向上プラン)、認め合いプラン、鍛え合いプランを設定する。各プランの達成目標におけるキーワードを「基礎学力」と「読む力」、「自己肯定感」と「思いやり」、「基本的な生活習慣」と「進んで運動」を目標とし、評価していく。

(2) 学び合い(学力向上)

基礎学力の一層の定着を目指し、朝学習の時間を位置付ける。朝読書とのバランスに配慮しながら、児童の自主学習への支援にもつなげていく。算数科や国語科における複式授業について、一層研修を深める。また、警報発令等による休校を見込み、30数時間程度の予備時数を確保する。(3～6年生通年でクラブ・委員会のない月曜日6校時、3学期2年生の火曜日6校時の実施)

(3) 認め合い

園児との交流の場や縦割り活動の充実を図り、自分のよさ、友達のよさに気付き、自己肯定感や思いやり・助け合いの気持ちを一層培う。また、人との関わりでは、外部講師や地域人材の一層の活用も図る。

(4) 鍛え合い

基本的な生活習慣やルール・マナー(挨拶・返事・後片付け・姿勢・言葉遣い)を一層大切にするとともに、縦割り班を活用した校内体育の取り組みや昼の時間の活用を工夫し、進んで運動に取り組む児童を育てる。